

2020年8月6日ドイツ・ミュンヘン

2020 年度 第 3 四半期決算

期間:2020 年 4 月 1 日~6 月 30 日

厳しい情勢の中、力強いチームパフォーマンスを発揮！ 戦略コンセプト、Vision2020+が軌道に乗る

「深刻な世界的危機のさなか、当社は、堅調な業績を達成し、徹底して事業再編を推し進めました。当社の戦略コンセプトVision2020+が軌道に乗りつつあり、Siemens Healthineersは、このプログラムの戦略的かつ変革的な力を証しています。当社従業員、そして当社の取引先には心より感謝し、また敬意を表します。彼ら全員が、献身とパフォーマンスに対する素晴らしいベンチマークを打ち立ててくれました。」— シーメンスAG社長兼CEO ジョー・ケーザー

- 売上は、モビリティ事業が成長を達成し、他のインダストリー事業が主に新型コロナウイルス感染症による要因から減少し、前年同四半期から5%減の135億ユーロとなった。受注は、7%減の144億ユーロで、モビリティ事業の大型受注により出荷受注比率は1を大きく上回り1.07となった。
- 為替の影響およびポートフォリオ効果を除く比較可能ベースで、売上および受注は実績と同じ。
- インダストリービジネスの利益(Adjusted EBITA)は、デジタル・インダストリーズ部門の株式保有の再評価により2億ユーロの利益があり、18億ユーロに増加。インダストリービジネスの利益率は、1.7ポイント増やした再評価の効果と0.4ポイント引き下げた退職手当費用を含めて14.3%。
- 純利益は5億ユーロ、基本1株当たり利益(Basic EPS)は0.67ユーロ。
- フリーキャッシュフローは堅調で、2019年度第3四半期の4億ユーロから増加し、25億ユーロ。すべてのインダストリービジネスで改善。

(単位:100万ユーロ)	第3四半期		増減(%)	
	2020年度	2019年度	実績	比較
受注	14,402	15,566	(7)%	(7)%
売上	13,491	14,238	(5)%	(5)%
利益(Adjusted EBITA)				
インダストリービジネス	1,792	1,662	8%	
内:退職手当	(44)	(50)		
利益率(Adjusted EBITA margin)	14.3%	12.6%		
インダストリービジネス				
退職手当を除く	14.7%	13.0%		
継続事業からの利益	986	1,059	(7)%	
内:退職手当	(58)	(89)		
非継続事業からの利益(損失)、(税控除後)	(451)	78	n/a	
純利益	535	1,137	(53)%	
基本1株あたり利益(単位ユーロ)	0.67	1.28	(48)%	
フリーキャッシュフロー(継続事業と非継続事業)	2,464	434	>200%	
ROCE(継続事業と非継続事業)	3.9%	8.7%		

- 新型コロナウイルスによるパンデミックの影響を強く受けた複雑なマクロ経済環境下で、事業や地理的地域によるばらつきがあったが、需要が減少し、成長機会が増加した。これら市場力学は、2020年度第3四半期におけるシーメンス事業の売上と利益に著しい影響を与えた。主要な供給上の制約は成功裏に回避。
- 大型受注は増加したものの、主に Siemens Healthineersとスマートインフラストラクチャーにおける減少により、全体的な受注は減少。モビリティ事業では、前年比で受注が若干増加。
- モビリティ事業で若干増収。他の3つのインダストリービジネスで減収。
- 為替の影響とポートフォリオ効果は前年比で売上にほとんど影響せず。
- インダストリービジネスの利益(Adjusted EBITA)は、ソフトウェア事業が好調であったデジタルインダストリーズ、およびレントレー・システムズの株式再評価による2億1,100万ユーロの利益により、増加。この増加は、他のインダストリービジネスの減少を十二分に相殺。すべてのインダストリービジネスが、パンデミックの制限により発生したコスト削減の恩恵を受けた。
- インダストリービジネス以外では、フィナンシャル・サービスで減収。これは、株式投資の減損損失を計上し、信用リスクに対する引当金を増加したことによる。
- 非継続事業は、主に新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受けたシーメンス・ガメサ・リニューワブル・エナジー(SGRE)の損失により、急激に赤字に転落。プロジェクトの遅延やコスト増が響く。非継続事業は、主にガス&パワーの分社化に関連した在庫の評価減や法人税費用の増加による影響も受ける。
- 継続事業による税引き前利益は前年度水準に近く堅調さを維持した一方、純利益は、法人税費用の増加と、主に非継続事業により減少した。
- インダストリービジネスのフリーキャッシュフローは、2019年度第3四半期の10億990万ユーロから増加し、21億800万ユーロ。すべてのインダストリービジネスで改善したが、とりわけ顕著であったのがモビリティ事業で、2020年度第3四半期は主要顧客プロジェクトの前払いがあった。シーメンスエナジーにおける堅調な運転資本の管理により、非継続事業のフリーキャッシュフローは、2019年度第3四半のマイナス2億8,700万ユーロから黒字転換し、4億3,300万ユーロに。
- 2020年6月30日現在の年金引当金および類似債務:79億ユーロ(2020年3月31日時点では75億ユーロ)。この増加は、主に、制度資産のプラスのリターンにより一部相殺されたが、想定割引率の減少による。
- ROCE(使用資本利益率)は、主に純利益の減少により低下。

将来の業績に関する見通し

このリリースには、過去の出来事ではなく、将来の業績に関する見通しや情報が含まれています。「期待する」、「予想する」、「意図する」、「計画する」、「信じる」、「模索する」、「推定する」、「予定する」といった言葉やその類義語は、将来の業績に関する見通しに該当する可能性があります。こうした見通しは、当社の現時点での予測と一定の前提に基づいており、したがって、特定のリスクや不確実な要素に左右されることがあります。シーメンスの事業活動、事業戦略、業績に影響を及ぼす要素はさまざま、その多くはシーメンスには制御不可能なものです。そのため、シーメンスグループの実際の業績、活動、成果は、こうした将来の業績に関する見通しの記述や暗示とは大きく異なる可能性があります。特定の不確実な要素には、景気や取引状況の変化、為替動向や金利の変化、他社による競合製品・技術の導入、シーメンスグループの新しい製品・サービスの不振、事業戦略の変化やその他のさまざまな要素の変化などが含まれます。万一、これらのリスクや不確実な要素が現実のものになれば、実際の業績は将来の業績の見通しの予想、確信、予測、期待、意図、計画、予測とは大きく異なる可能性があります。シーメンスは、将来の業績に関する見通しの作成後に発生する出来事に照らして見通しを更新、修正する意図はなく、またそうした義務を負うものではありません。

【参考資料】

本資料はシーメンス AG (ドイツ・ミュンヘン) が2020年8月6日 (現地時間) に発表したプレスリリースの一部を日本語に抄訳したものです。本資料の正式言語はドイツ語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。原文プレスリリースおよび関連資料は以下の URL よりご覧いただけます (英文)。

<https://press.siemens.com/global/en/pressrelease/earnings-release-and-financial-results-q3-fy-2020>

報道関係からのお問い合わせ先:

シーメンス株式会社

コミュニケーション 今村

E-mail: masako.imamura@siemens.com